

## 夢は大きく いっそ世界まで

私が「長崎公演を応援する会」に参加をしたのは、確か3年前のことです。元十八銀行専務の植松さんのお声掛けで何気なく出向いたこの会が、合奏団とのご縁の始まりでした。

人口9万人足らずの街でプロのオーケストラが誕生したのは、まさに奇跡です。“産みの親”である芸術監督の村嶋寿深子さんは、奇跡を起こすまでにどれほどのご苦労をなさったことでしょう。そして奇跡の合奏団は“育ての親”であるアーティスティック・アドバイザー松原勝也さんのご指導のもと着実に成長しています。サマーキャンプにおける子どもたちへのご指導も、今やすっかり定番行事となりました。

とはいえた現実問題として、NPO法人の存続を奇跡頼みというわけにはいきません。合奏団の“これから”を考える日々の中、心待ちにしていたウイーンフィルの演奏会に行きました。33歳のベネズエラ生まれの指揮者グスターボ・ドゥダメルが、伝統あるオーケストラと共に奏でるシベリウスの交響曲第2番。美しく、透明でいて熱く、時にうねり、時に凧ぎ、目の前に映像が見えるような、それは魂を揺さぶられる演奏でした。

演奏の余韻に浸りながら、ロビーで『世界でいちばん貧しくて楽しいオーケストラ～エル・システムの軌跡』という本を買いました。エル・システムとは、青少年犯罪が深刻化するベネズエラで、社会政策の一環として40年前に生まれた音楽教育システムです。子どもたちが、経済的事情の懸念なく平等に楽しく音楽を学び、音楽活動を通じて社会規範やコミュニケーションの力を学ぶというエル・システム。ドゥダメルはこのシステムで育ち、その活動は世界中に広がっています。

OMURA室内合奏団の“これから”も、街に音楽を響かせ、人と人を繋ぎ、子どもたちの夢を育むものでなければ、と思います。子どもたちを巻き込んだ音楽活動の中で、彼らが憧れるような合奏団を目指すには、多方面の方々のご意見やお知恵を拝借して…と力んではみても、何せ新人の理事長です。光田前理事長のご指導を頂きながら、私自身も楽しんで務めて参ります。大村始発の合奏団、大村を出て長崎を超えて、東京を超えて、夢は大きくいっそ世界に羽ばたいてみましょうか。



しま ざき まさ ひで  
嶋 崎 真 英

(認定NPO法人 OMURA室内合奏団理事長・  
長崎自動車株式会社 代表取締役社長・  
在長崎オランダ王国名誉領事)

OMURA室内合奏団は  
**“認定NPO法人”**

として新たに出発します。

2011年12月よりNPO法人として活動しておりましたが、厳しい基準をクリアし、この度2014年5月7日に“認定NPO法人”として認定されました。これもひとえに会員様のご支援あっての事と感謝申し上げます。

これに伴い、一般のNPO法人にはない“税制優遇”が適用されます。詳細については同封の冊子(入会のご案内)をご覧ください。

ダブルリード\*族

## オーボエ・ファゴット メンバーによる 定期演奏会大特集！



○ オーボエ  
はなだ ともこ  
花田 朋子



○ オーボエ  
きりたに みきこ  
桐谷 美貴子



○ ファゴット  
たねくち たかあき  
種口 敬明



○ ファゴット  
いけだ ゆき  
池田 祐希

同じダブルリードを使って音を奏でる楽器、  
オーボエ、ファゴットのメンバー4人に、  
今回の演奏会の魅力を色々な切り口で  
聞いてみました。



\*ダブルリード…乾燥させた革(あし)を削ったものを二枚重ね合わせて作られていて、  
これを楽器の吹口に取り付けて吹くことで振動させて音を出します。

検証!

### めったにお目にかかるないオーボエの都市伝説

- ① ギネスブックに載っているらしい→木管楽器の中で一番難しいそうです。
- ② 練習より大事な作業があるらしい→ひたすらリード作ってます。
- ③ 小さく・弱くという言葉に敏感らしい→リードが小さいのでコントロールが難しい。
- ④ コンマスよりも偉そうな時があるらしい→オーボエのラの音にコンマスが合わせ、チューニングが始まる。
- ⑤ 美味しいソロがいっぱいあるね～と言われる→天国か地獄かそれが問題だ。
- ⑥ いつも凶器をちらつかせているらしい→暇さえあればナイフでリードを削っているのです。
- ⑦ 二枚舌なの？→二枚…リードです！！
- ⑧ あー、あのでかいヤツね→大笛でも大ぼらでもないです。

文: 桐谷 美貴子

信じる  
信じないは  
あなた次第です！



シェレンベルガー。

初めて彼のCDを聴いた時、今まで聴いたことのない上品な甘い音色と音楽に鳥肌が立ちました。それ以来、新しい曲に取り組む度に彼の録音を聴いてはマネしようとやってみました。まさに憧れのオーボエ奏者です。

私の一番のお気に入りは、ビバルディ作曲の“忠実な羊飼い”です。丁度、彼がベルリンフィルに入ったばかりの頃の録音です。“素敵”的の一言！！(今は廃盤？！)

生の演奏に触れたのは三度。

ウィーンとベルリンの主要オーケストラで活躍する奏者で編成された、『アンサンブル・ウィーン=ベルリン』。

当時、アンサンブルを組んでた仲間と聴きに行き、名手たちの見事なプレーに皆で興奮しました。プーランクの六重奏で、彼がメンバーをリードしながら演奏する姿は今でもしっかりと目に焼きついています。

福岡では『イタリア合奏団』と共に。

なんとこの時、彼はアンコールでリコーダーを奏でました。それがまたとても美しくびっくりしましたが、後日、6才からオーボエを始める13才までロックフレーテ(リコーダー)をやっていたと知り、なるほど～と頷けるところがありました。

そして、何よりも印象に残っているのは、NHK交響楽団との共演。もちろん曲はモーツアルト作曲“オーボエ協奏曲K314”。入学時から、卒業試験ではこの曲を演奏したいと思っていた私にとって、卒業前にシェレンベルガーのモーツアルトを聴けるチャンスにめぐり合えて本当にラッキーでした。モーツアルト。練習しても練習しても次々と新しい“課題”が出てきて苦戦していました。彼のきっと想像もつかない程の修練と経験の積み重ねの上に獲得された自然な音楽。そして生き生きとした華やかな演奏

に感動すると同時に、いつの間にか演奏する楽しさを忘れていた自分に気付きました。そして、卒試でこのモーツアルトを演奏できることが嬉しく思えたし、あとは自分らしくできたらいいな、と肩の力が抜け、新しく頑張ることができました。

2014年12月19・20日。奇跡が起こる！

シェレンベルガーと同じステージをOMURAメンバーと一緒に迎えることができる。曲はもちろんあの時のモーツアルト。

私のオーボエ人生にこんなページが刻まれるなんて本当に幸せです。そして今回は指揮者でもある彼の音楽作りに自分がどこまで応えられるか不安もありますが、その共有できる時間を今からとても楽しみにしています。

そしてたくさんの方にシェレンベルガーの音楽に触れ頂きたいと思っています。

皆様是非お越しください。

花田 朋子(オーボエ)



Hansjörg Schellenberger



シェレンベルガーさんの録音を探してみると、オーケストラにソロに室内楽 etc… たくさんある中から、4人におすすめの一枚を聞いてみました。あなたのお気に入りはどの一枚？

**マーラー／交響曲第1番ニ長調《巨人》**

聴いてみてね♪

ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団  
レーベル名／グラモフォン  
指揮／クラウディオ・アバド

### おすすめポイント

シェレンベルガーさんと言えば僕が髪の毛フサフサの大学生の頃には既にベルリンフィルのスタープレイヤーとして世界の音楽界に君臨していた神様の様な方。当然沢山の録音が存在します。また、僕のドイツの先生の住んでいた所は「シェレンベルガー通り」と言いまして…シェレンベルガーさんには何の関係もありませんが、いいじゃ～ないの～。勝手にですがとても親近感を持たせて頂いています。そんな訳で我が家には数多くの彼の音源がありました。中でも一番のお薦めはマーラーの交響曲第1番「阪神」…いや、「巨人」です。この演奏は帝王ヘルベルト・フォン・カラヤンが三十数年間務めたベルリンフィルの芸術監督を辞任し、後任にクラウディオ・アバドが選出された直後に行われた記念碑的な演奏会です。

それまでのカラヤンの圧政から解き放たれ、民主的自由を勝ち取ったベルリンフィルのアバドに対する歓迎の気持ち、期待、そして緊張感が詰まりに詰まっている気持ちは、その中でも際立っているのがシェレンベルガー氏のオーボエです。彼の演奏は楽団員のそう言った気持ちを代表して世界中に語りかけているような素晴らしい演奏です。

その、シェレンベルガー氏が12月になんと大村にやって来て指揮をし、コンツェルトを奏でるんです。考えるだけで鼻血が出そうな位興奮してしまいます。皆さん、これは聴かないと絶対に損しますよ。来なきや～ダメよ～ダメダメ♪

失礼いたしましたm(\_ \_)m 種口 敬明（ファゴット）

**ベートーヴェン／管楽器のための音楽**

ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団管楽器奏者  
レーベル名／カメラータ・トウキョウ

主な楽曲  
◆2本のオーボエとイングリッシュホルンのための三重奏op.87  
◆「ドン＝ジョバンニ」より「お手をどうぞ」の主題による変奏曲  
◆オーボエ、3本のホルン、ファゴットのための五重奏曲

### おすすめポイント

オーソドックスかつ端正な演奏によって、改めて作曲家の魅力や楽曲の良さを味わえる一枚です。中には3本のホルンを使う珍しい楽曲も！

桐谷 美貴子（オーボエ）



## モーツアルト&ベートーヴェン／ピアノと管楽のための五重奏曲

レーベル名／ユニバーサル ミュージック クラシック  
演奏者名／ジェームズ・レヴァイン（ピアノ）  
アンサンブル・ウイーン＝ベルリン  
ハンスイエルク・シェレンベルガー（オーボエ）  
カール・ライスター（クラリネット）  
ギュンター・ヘーフナー（ホルン）  
ミラン・トルコヴィチ（ファゴット）

### おすすめポイント

大学生になったばかりの頃、初めて買った室内楽のCDがこのCDでした。

実はファゴットの方を目当てに買ったのですが、シェレンベルガーさんの美しい音色と多彩な表現に魅了され、シェレンベルガーさんの音に耳を澄ませてCDに穴があくほど聴いたのを覚えています。シェレンベルガ

さんの生の音に接することが出来たらとっても幸せだろ

うなあ～なんて思ってCDを聴いていたあの頃のわたし。今年12月その夢が叶います。いまだに夢を見ているようで信じられません。

是非皆様にも一度聴いて頂きたい素晴らしいCDです。

池田 祐希（ファゴット）



## Salon Music of the 19th Century

レーベル名／Sony Classical  
演奏者名／沃尔夫冈·シュルツ（フルート）、  
ハンスイエルク・シェレンベルガー（オーボエ）、  
ロルフ・ケーネン（ピアノ）

### おすすめポイント

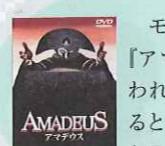
まさに19世紀社交界のサロンコンサートという感じ！  
シェレンベルガーとシュルツ（フルート）との、名人芸  
という雰囲気の華やかな演奏が入ったCD。最後の  
『ウィリアム・デル』による、“フルートとイングリッシュ  
・ホルンの為の華麗な二重奏曲”ではシェレンベル  
ガの都会的な洗練されたイングリッシュ・ホルンが  
聴けます！！

花田 朋子（オーボエ）

おすすめ♪



### 番外編～定期演奏会に向けて事務局スタッフよりその他おすすめ♪



モーツアルトが主人公の映画  
『アマデウス』です。天才とい  
われたモーツアルト。これを観  
るとモーツアルトのイメージが変  
わるかもしれません！

さかぐち 坂口 裕司



クラシック音楽の世界を生き生  
きと描いた漫画、『のだめカンタ  
ーレ』です。第7巻には今回の  
定期公演で演奏されるオーボエ協奏  
曲も登場しますよ♪

©二ノ宮 知子／講談社

ひろせ 広瀬 美希





## そこでモーツアルトの知っているようで知らない 5つのハテナに、迫ります♪

ヴォルフガング・アマデウス・モーツアルト (1756 - 1791)  
オーストリアのザルツブルク生まれ。『神童』と呼ばれた古典派の天才作曲家。

### モーツアルト 5つのハテナ?

#### 1 モーツアルトって本当に神童?

3歳でクラヴィーアを弾き始め、絶対音感を持つことが分かり、5歳で初めて作曲、6歳の時には一流のピアニストとして活躍。そして8歳で初めての交響曲を作曲…という信じられない幼少期。今回の定期演奏会で演奏される交響曲第一番はモーツアルト8歳の時にロンドンで作られました。

#### 2 モーツアルトは旅が好き?

モーツアルトの生涯は35年10ヶ月と9日（13097日）という短いものでしたが、そのうち人生の約3分の1である3720日を旅に使っています。旅に行く度に様々な人や音楽との出会いがモーツアルト自身やその音楽に広がりを持たせていました。

モーツアルトは手紙の中でこのように言っています。

『旅をしない人は（少なくとも芸術や学問に携わる人たちでは）全く哀れな人間です！』

#### 3 モーツアルトは何カ国語話せたの?

ドイツ語、フランス語、英語、イタリア語、ラテン語の五カ国語を使いこなしていたと言われています。学校へ通っていないモーツアルトは父からの教育や旅先での実践、声楽曲の作曲から言語を習得していったこと！

#### 4 作曲のスピードは速かった?

今回の定期演奏会でも演奏される交響曲第39番は40番、41番と共にモーツアルトの三大交響曲の一つに数えられる名曲です。モーツアルト32歳（1788年）の時に全て書かれています。

モーツアルトは交響曲を頭の中で作曲し、それを譜面に起こしながらその頭でまた次の楽章を作曲していたという超人的な人物です。

#### 5 最古のやすらぎの音楽?

モーツアルトの音楽には二つのモーツアルト効果というものがあると発表されています。

① モーツアルトの音楽は高周波を含んでいる。

人がリラックスしたり、集中している状態の時に出ているα波と呼ばれる脳波を引き出す効果が高い。

② 『1/fゆらぎ』と呼ばれる音の動きが豊か。

自然界における『ゆらぎ』の音が豊かであるために人が安らぐ。

癒しの楽器として知られるオーボエ。

巨匠シェンベルガー氏によって奏でられるオーボエ

協奏曲を聴くことが出来るなんて

最高の安らぎの時間になること間違いないなしです！

みなさんと素敵  
音楽の時間を過ごせますように♡



文：池田 祐希

#### 芸術監督だより



## OMURA室内合奏団 東京公演

北の大地、北海道江別市まで今井信子さんのコンサートを聴きに行ってきました。9月18日、19時開演に間に合うよう、長崎空港を10時55分に出て、羽田で乗継、千歳空港から電車で新札幌へ。タクシーで江別市民文化ホール、えぼあホールへといいしさか強行軍。えべつ楽友協会主催のコンサートは、「今井信子&伊藤恵デュオ・リサイタル」。前半、今井さんがヴァイオリンでモーツアルトのソナタやブルームスのソナタ「雨の歌」を弾き、後半はヴィオラで本人編曲のブリテンの無伴奏チェロ組曲とクラークのヴィオラソナタ（1919）という意欲的なプログラム。伊藤さんとの絶妙なデュオは、はるばる江別まで行った甲斐がある聴きごたえあるものでした。

主催のえべつ楽友協会は、江別市を主な事業地として学術・文化・芸術・スポーツなどのNPO活動に取り組んでいる団体。公演後、美味しい鮨をご馳走になりながら、親しくお話しもでき、これからの交流が出来ればと思っています。また、今井信子さんとOMURA室内合奏団の共演を実現させたいと、動き始めています。12月の定期はシェンベルガーとの共演。来年5月は秋山和慶指揮による公演。そして東京公演も予定されている、ますます血氣盛んなOMURA室内合奏団です。変わらぬご支援よろしくお願ひいたします。

むらしま すみこ  
村嶋 寿深子

## ♪ 私とOMURA室内合奏団 ♪

vol. 3

私がOMURAに入団したのは29歳の頃、あれから早11年目に入りました。早、と書きましたが色々な事がありました。地元長崎でまさかのプロオケ経験ができることにただただ喜びを感じた入団当時。しかし徐々に長崎初のプロオケという看板を重圧に思うようになり、責任を感じるようになりました。

30代半ばには、オケという多人数の才能の集まりの中でその1構成員として自分が貢献できること、自分にしかできないことはなんだろう?と考え始めました。そんな中オケ全体の演奏が少しづつ形になってきて、OMURAらしい音を感じるようになってきました。ワクワクの始まりです！

そして30代後半、重圧が心地好いプレッシャーに変わり演奏以外の事にも目が向いていきました。例えば運営の為に沢山の人と人との関わりがあることも大切にしたいと思いました。

故郷でクラシックの醍醐味であるオケの演奏ができる…そしてその舞台に立つ事で沢山の人達と心が通い合い、人生の様々な事柄をともに乗り越えていく勇気をもらえる…私はなんと幸せなチャンスをいただいていることかと実感します。

さて、いよいよ40代に突入しました。私事ですが7月に息子を出産いたしました。12月の定期は大切なお客様と息子に見せる大舞台となります。素晴らしい音楽の時間になるよう、仲間と共に力を合わせて頑張りたいと思います。

これからもOMURAとともに皆さんと末永くお付き合いできますように。



はますな ゆみこ  
濱砂 由美子(フルート)

## ♪ 音楽と私

諫早交響楽団の「楽器を演奏できない」会長の高原晶と申します。楽器は弾けませんが聴くのは大好きです。平成20年のOMURA室内合奏団第6回定期演奏会でベートーベンの交響曲7番を聴いて、即パトロネージュ俱楽部会員となりました。

関西医科大学時代のバドミントン仲間が私をクラシックの世界に導き、大学6年間は「バドミントン、酒、マージャン、時々クラシック」という生活を送りました。地元大阪のオーケストラは全盛期の朝比奈隆ひきいる大阪フィル、さらに進級試験の真最中にくるウィーンフィルをはじめとするメジャーオーケストラ、いつも落第覚悟で聴きに行っておりました。

今思えば、ベーム・ウィーンフィルやムラビンスキー・レングラーードフィル、ハイティンク・コンセルトヘボウ、小沢・

ボストン、など学生券の割安切符で聴くことが出来、贅沢な音楽生活でした。平成11年諫早交響楽団の定演でベートーベンの第九に無謀にもバスで合唱参加。

以後6年間諫早混声合唱団に所属。モーツアルトのレクイエムなどに参加。オーディションがあるとの事で、OMURAのフォーレのレクイエム参加は断念。聴衆に回りました。平成25年縁あって諫早交響楽団の会長になりました。諫早交響楽団とともにOMURA室内合奏団も応援いたします。これからもすばらしい演奏をお願いいたします。



たかはら あきら  
高原 晶

(諫早交響楽団 会長)



## じゅうじ 修爾くんのイタリア便り (7)

こんにちは、ヴァイオリンの藤木です。毎回御愛読いただきありがとうございます。こちらは早くもセーター、場合によってはコートを着用する季節となりました。

さて、今回紹介しますのは9月末にクレモナで催されました年に一度のお祭りです。ご存知のようにただでさえ弦楽器の製作家が集う町なのに、この3日間のお祭り期間中は世界中から製作家や楽器のコレクター、ディーラーが集まり展示会はもちろん、楽器のプレゼンテーションのための演奏会が行われました。買付のための交渉があちこちでなされており、大変賑やかでした。このお祭りの素晴らしい魅力の一つとして、だれでもどの楽器でも試奏が出来る事が挙げられるでしょう。もちろん私も率先して試奏して参りました。軽い気持

ちで弾かせてもらったストラディバリでしたが、後で尋ねたところ、希望価格で約1億2千万円とのこと。そう言われてみれば良い楽器でした、マンマミーア！

というわけで大変満喫して帰って参りました。写真は会場で合流した楽器製作家の西村さんと。長崎県出身で、現在クレモナに住まわれています。



12月の定期演奏会へは久しぶりに藤木さんが帰ってきます♪ぜひ会いにホールへお越し下さい。

ご支援ありがとうございます (10月16日) 法人会員数 64件 ( $\pm 0$ 件) NPOは、会員皆様の会費が主な収入源です。  
現在 個人会員数 188人 (+2人) 周りの方で、興味のある方がいたら、ぜひお誘い下さい。

### 編集後記

むか～しヴァイオリンを辞めてオーボエをやりたい！！と言っていたほど、オーボエの音色が大好きな私♡12月の定演とても楽しみです♪ (さあり)

移動の車や列車、バスの中の時間も大好き。その時々の景色や空気感が感じられますよね。だけど、どこでもドアがあつたらいいのにな～なんて思う毎日です。 (いけっち)

最近サッカー観戦に行くようになりました。生の迫力と興奮は舞台もスポーツも同じですね。長崎にプロのチームがある幸せを感じるこの頃です。 (みき)